邦人３名の即時解放と自衛隊の
イラクからの撤退を求める声明

４月８日、イラク国内で日本人３人が何者かによってに拘束された。３人はフリーライターの郡山さん、ＮＧＯ代表の今井さん、ボランティアの高遠さんで、平和に役立ちたいと現地に入っていた。今井さんは「自然と人間」３月号で「旭川現地ルポ・黄色いハンカチの舞う『銃後』の町で」を執筆した人で、自衛隊のイラク派兵を憂いていた。

犯行グループは、カタールの衛星テレビアルジャジーラに拘束した３人のビデオと手紙を送付してきた。ビデオには目隠しされて銃を向けられている姿が映し出されていた。手紙には「あしき米軍を支援した」「３人の日本人は我々の手に落ちた」「自衛隊を撤退させるか、そうでなければ彼らを生きたまま焼き殺すか」と書かれてあった。

日本政府は犯行グループの自衛隊撤退要求に対し、「自衛隊は人道支援を行っている。撤退する理由はない」と拒否している。３人の家族は無事戻れるよう自衛隊撤退を含めた「全力の努力」を外務大臣に求めた。また、撤退を否定している小泉首相との面談を求めているが、首相は「外務省が対応している」と家族の切実な願に応じようとしていない。

そもそも何故このこの様な事態が起きたのか。日本政府はアメリカ・イギリスのイラク攻撃をいち早く支持し、イラク復興特別措置法にもとずき戦争状態のイラクへ自衛隊を派兵した。まさに平和憲法を無視した行為である。イラク国内ではアメリカ軍を中心とする占領軍に不満が増大し、自爆テロ・占領軍に対する攻撃が激化している。いくら人道支援といえどもイラク国民をはじめ周辺国には「日本の軍隊がアメリカを中心とする占領に荷担しにきた」とみえる。そのような中、今回の拘束事件が発生した。日本政府のすべきことは３人の生命を最優先し、イラクに派兵している自衛隊を撤退させることにある。

私たちＪＲ東海労は、罪のない日本人が拘束されたことを許さない。３人の即時解放を強く求める。そして２度とこの様な事態を起こさないため、日本の平和憲法遵守し世界の平和を築くため、イラクに派兵している自衛隊の即時撤退を強く求める。

これまで私たちＪＲ東海労は、一切のテロ・戦争に反対し、平和な世界をつくるために奮闘してきた。今後も世界の平和を希求し、憲法９条を守り広める闘いを全ての仲間と連帯し広範な闘いを展開していく。

２００４年４月１０日
ＪＲ東海労働組合